

を併用すると膀胱の病巣部位も含め診断率が上昇する。
 ⑤ スキャン診断で膀胱癌15例の確定診断は膀胱癌7例、
 膀胱のう腫2例、肝内胆管癌2例 Vater 乳頭部癌2例、
 肝炎1例、不明1例、また膀胱炎としたもののうち手術で
 膀胱全般におよぶ膀胱癌が1例あった。⑥ Scanning の
 解像力は Rescan > Colorscan = Photoscan > Scinti-
 camera > Dotscan の順によいことがわかった。

*

17. 胸骨旁リンパ節シンチグラフィの 臨床的意義

萩野和彦 中西 敬 山田典将
 中田太志
 (山口大学 放射線科)

乳癌患者において胸骨旁リンパ節への転移の有用は、
 その患者の予後に少なからぬ影響を与えるものである。
 しかし現在では内胸静脈造影法により局所の状態を間接
 的に知りうるのみで、これとても患者に与える苦痛に対
 して診断的意義は少ないとされている。そこでわれわれ
 は、現状では胸骨旁リンパ節を連らねる内胸リンパ管
 を直接に造影不可能なために、KAZEM 等の報告した
 ^{198}Au -Colloid を用いた間接的な胸骨像リンパ節シンチ
 グラフィーに注目し、実施したところ、本法が胸骨像リ
 ンパ節の病態をある程度反映することを知った。手技の
 容易な点および患者に与える苦痛の少ない点より本法が、
 乳癌、胸壁腫瘍および前縦隔腫瘍等のスクリーニングテ
 ストになりうることを述べ、併せて2、3の症例を供覧
 したい。

*

18. ^{85}Sr による下腿仮関節部骨再生能力の検討

鷺海良彦 樋口武彦 岸川 高
 西谷 弘
 (広島日赤病院 放射線科)
 高岸直人 加川 涉
 (同上 整形外科)

^{85}Sr による骨シンチグラムは、癌の骨転移、骨腫瘍、
 骨髄炎等の診断に利用されている。

骨折においても ^{85}Sr の集積像がみられる。そこで、
 われわれは骨折後の non union あるいは、delayed
 union の骨再生能力を術前に ^{85}Sr によってある程度、
 判定できるのではないかと考えた。

方法としては、 $^{85}\text{SrCl}_2$ 100 μCi 静注、24時間後に島
 津製 SCC-130W スキャナーで Isosensitive scanning
 を行なう。体外測定は、静注後24時間、42時間、96時間
 の3回測定し患側と健側の ratio を算出した。症例は7
 例であるが、4例を供覧する。

症例1. (41才, ♀) 左上腕骨折
 non union の状態でシンチグラムでは同部に陽性像
 がみられ、ratio は、2.0, 3.0, 4.0, であった。

症例2. (33才 ♂) 左肘骨骨折
 non union の状態でシンチグラムでは同部に陽性像
 がみられ、ratio は、3.0, 3.0, 3.5 であった。

症例4. (43才 ♂) 左下腿骨折
 delayed union の状態でシンチグラムは陽性像を呈し、
 ratio は、3.5, 4.0, 7.0, と非常に高かった。

^{85}Sr による検査は、レ線像で作られる information 以
 上に多くの information がえられる。

*

19. カテーテル型半導体放射線検出器による 悪性腫瘍の診断

桜井 孝 横山 敬
 (山口大学 放射線科)

悪性腫瘍は他の良性腫瘍にくらべて癌の取込みが多い。
 腫瘍内に取込まれた放射性燐を検出することにより悪性
 腫瘍の診断を試みた。測定した装置は東芝製カテリック
 ス (RDP-302-1) カテリックスプローブは 2.3 mm ϕ
 遮光型である。測定は放射性燐酸ナトリウム 500 μCi 静
 注、24~50時間後に行なった。測定した症例は食道癌例、
 食道腫瘍1例、縦隔洞腫瘍1例、網膜膠腫3例、悪性黒
 色腫1例であった。放射性燐の β 線の飛程の検討を行
 なったが、Aerylite phantom で測定した結果6 mm 厚
 で β 線はほとんど吸収された。測定結果の判定は組織学
 的に悪性であったもので30~80%の放射能増加を認めた。
 しかし良性と思われるものにも40%の増加を認めたもの
 があり、判定基準に関しては今後症例を重ねて検討した
 い。尚測定手技においても問題があり、できるだけカテ
 リックスプローブの端窓を患部に密着、固定できるように
 器機の改良あるいは手技の改善が必要と思われる。

*